

ケガによる救急搬送事例の紹介と その予防対策について



～ はじめに ～

令和2年中に長野市消防局管内で

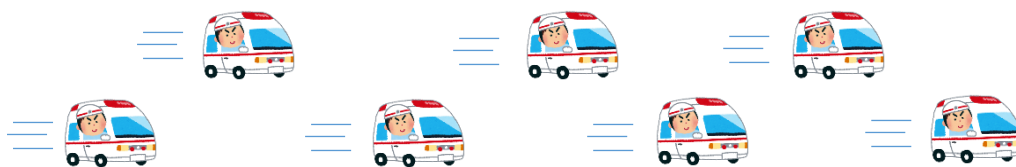
救急搬送された人は…

16,442人

そのうち、ケガ等により搬送された人は…

2,630人

1日平均7人の方がケガ等により救急車で病院へ搬送されています



～ 特に注意が必要な方 ～

ケガにより搬送された方の内、

約60%が**75歳以上**の方です



※加齢によって、筋力、視力、聴力、バランス機能などの低下に伴い、転倒などによるケガをしやすいと言われています。

高齢の方は骨折などの歩けなくなるようなケガをすると、その後の寝たきりにもつながるので注意が必要です！

～ 主な搬送事例 ～

Case1 自宅内で転倒



夜中にトイレへ行こうとしたところ、小さな段差につまずいて転倒。その後から股関節に痛みがあり動けなくなりました。

※夜間は照明を使用し足元に注意しましょう。

Case3 椅子から転落



虫を追い払おうと椅子の上に立ったところバランスを崩して椅子から転落。肩と背中を強打した。

※不安定なところには無理して乗らないようにしましょう。

Case5 屋根雪下ろし中に転落

屋根の雪下ろし中に足を滑らせ庭に転落。腰と頭を地面に打ち付けた。

※高所作業をする際は必ず安全帯などを装着し、一人で行わないようにしましょう。



Case2 階段から転落



階段を下っていたところ、足を踏み外し転落。階段の下にあった下駄箱に頭をぶつけ出血した。

※階段に手すりや滑り止めを設置して、転びにくい環境づくりをしましょう。

Case4 飼い犬に咬まれた。



自宅で飼っていた犬を触ろうとしたところ、右手を咬まれ出血した。

※特に初めて接する犬はむやみに触らないよう注意しましょう。

Case6 ベッドから転落







就寝中に介護ベッドから転落し背中を強打した。痛みで動くことが出来ずに翌朝家族により発見された。

※ベッドに落下防止用の柵などを設置し、床にもカーペットなどの緩衝物を敷きましょう。



～ 事例から学ぶ、ケガをしないための予防策 ～

- ・段差があるところは照明などで明るくしましょう。
- ・階段には手すりや滑り止めをつけましょう。
- ・電化製品のコード等は足元に這わせないようにしましょう。
- ・床に置きっぱなしの衣類、新聞紙などは足を滑らせて転倒する危険があるので片付けましょう。
- ・高所で作業する際は安全対策を万全にしましょう。
- ・適度な運動で転倒をしにくい身体づくりに心掛けましょう。

いざというときは・・・躊躇せず 119 通報をお願いします

※住所がわからない場所からの通報の場合は、近くの大きな目標物(大きな建物など)を伝えていただくようお願いいたします。



～ 最後にお知らせ ～

ケガをしてしまった時の応急手当や、AEDを使用した心肺蘇生法などを救命講習会で学んでみませんか？

長野市消防局では毎月救命講習会を開催しています。

興味のある方は、お近くの消防署・消防分署へお問い合わせください。



担当 長野市消防局 飯綱分署